

第3節 人口減少という課題の克服

1 人口減少という課題

全国の自治体において、将来的な高齢者人口の増加が避けることのできない状況にあります。加えて、高齢者の単身世帯や高齢者のみの世帯が増加することにより、日常生活において支援を必要とする方が増えることも予想されます。

羽村市長期人口ビジョン「第1節 羽村市の人口動向分析」で分析したとおり、羽村市の人口は、ピークである平成22年9月から減少傾向が続いており、今後、何の対策も講じず、社人研の推計どおりに推移すると、年少人口・生産年齢人口の減少と、高齢人口の増加が進むこととなります。

羽村市の地方創生を考えるうえでは、若い世代の定住者をどのように増やしていくかが課題であり、羽村市に暮らす全ての住民福祉の向上に取り組むとともに、「まち・ひと・しごと創生計画」では、計画期間である平成27年度から平成31年度の5年間、若い世代に焦点を充てた施策に取り組んでいく必要があります。

○若い世代の流出を止める

羽村市の人口減少において、女性を中心とする若い世代は、進学、就職及び結婚等のライフスタイルの変化を契機に転出している傾向があります。その影響が、出生者数の減少につながっていることが、人口減少の要因の一つであると分析しており、これらの課題の解消に取り組む必要があります。

○20代・30代の流入を増やし、市への定住を促進することで、出生者数の増加につなげる

女性を中心とする若い世代の流出を止めるだけでなく、新たな人口の流入も求めていく必要があります。長期人口ビジョンに掲げた目標人口の達成と高齢化率の抑制に努めていくため、20代・30代の流入を生み出すとともに、安心して子どもを産み・育てることのできる環境を整える必要があります。

2 羽村市の特徴を活かす

(1) 市民の持ち家率・愛着度の高さ

羽村市は、市民の持ち家率が6割以上、居住年数20年以上が6割以上と、それぞれ高くなっています。市への愛着度は9割以上が「住みたい」としており、自分の持ち家で長期間、羽村市に住みたいと思う市民が多いことは、羽村市の特徴の一つです。

平成22年度羽村市市政世論調査では、10年以上羽村市に居住しているという市民が多い中で、年代が高いほど愛着度が高くなっていることから、若い世代の定住を促進するためには、幼少期・青年期に市への愛着を育むこと、20代・30代の市民満足度を高めることが課題であり、これらを克服することが人口の流出抑制と新たな定住促進につながるものと考えます。

(2) 羽村市に縁のある方に情報発信

羽村市は、夜間人口と昼間人口に大きな差がないことも特徴の一つであります。

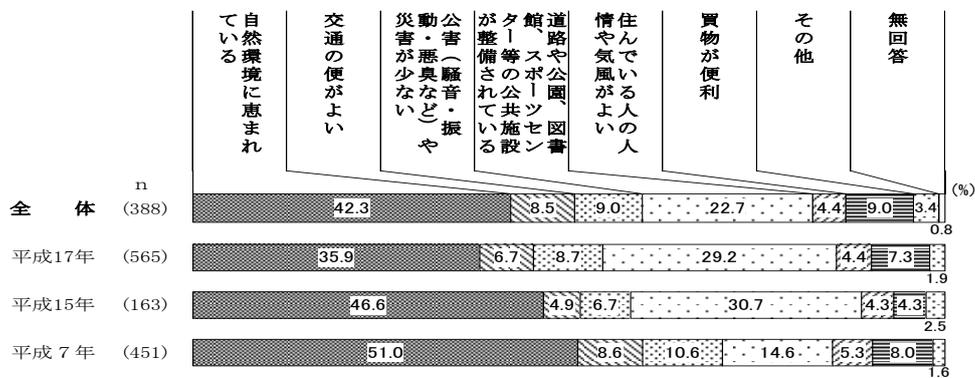
羽村市への定住を生み出していくためには、羽村市に縁のある方を取り込んでいくことが有益であることから、こうした通勤・通学で羽村市に通う方々に移り住んでもらうために、羽村市の魅力を知る既存住民と一緒に、市内外に情報発信していくことが重要であります。

(3) 既存住民が感じる羽村市の魅力

平成 22 年度羽村市市政世論調査では、住みよい理由として、「自然環境に恵まれている (42.3%)」が最も多く、次いで「道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が整備されている (22.7%)」、「公害 (騒音・振動・悪臭など) や災害が少ない (9.0%)」、「交通の便が良い (8.5%)」となっています。

また、羽村市まち・ひと・しごと創生計画懇談会では、「コンパクトな街なので何をするにもちょうど良い」という意見があり、その理由として、以下のことが挙げられています。

- ・「市役所などの公共施設へのアクセスが良く、歩くにもちょうど良い」
- ・「街中の人を知ることができ、交流することが可能なまち。人との交流を増やし、いい人材を育てる、いい人間関係を作ることが、毎日のこととしてできるまち」
- ・「防犯面や子どものことに目が届く。何でも手が届くようなちょうどいいまち」
- ・「助け合いができるまち。住む人も優しく、協力し合える。人と人とのつながりが残るまち」



資料：平成 22 年度 羽村市市政世論調査

(4) 羽村市の魅力を可視化した「はむらスタイル」

羽村市の持ち家率及び愛着度の高さと、既存住民の感じる羽村市の魅力こそ、これまで市が取り組んできたまちづくりの成果の一端であり、生涯学習センターゆとろぎ、図書館、スポーツセンター、スイミングセンター、水上公園、郷土博物館、動物公園などの公共施設と、市内全域に咲き誇る桜並木、関東最大級のチューリップ畑、玉川上水、多摩川沿いの自然、安くておいしい良質な水など、他の自治体には見られない魅力的な公共施設と適度な自然環境が、きれいな街並みと調和し、住むのにちょうどいい良質な住環境として広がっています。

暮らしでは、人と人、人と地域とを緩やかにつなげる地域コミュニティが、子どもたちを地域全体で見守ることで安全・安心を生み出し、子どもたちが笑顔で、のびのびと遊び・学び・友だちを作ることのできる良好な生活環境を形成しています。

このように、良質な住環境と良好な生活環境が、コンパクトな市内に凝縮されているからこそ、安心感のある心地よい日々の暮らしと休日の大切な時間を家族と過ごすことが可能となっています。そうした子どもたちの笑顔が家族全員の笑顔につながっている羽村市での暮らしを、住みやすい、魅力的と感じている、多くの既存住民の声や生活スタイルが、地方創生の主要な要素です。これらを「はむらスタイル」として可視化し、より多くの方に知っていただくことが、定住促進の第一歩であり、未来の住民となるターゲットに対して的確に情報発信していくことで、人口減少の課題を克服していきます。